

### 第3回行財政改革有識者会議 議事概要

日 時: 令和3年7月29日(木)10:00~11:50

会 場: 県庁行政庁舎 18階 特別会議室

#### 1 資料説明

事務局が資料説明を行った。

#### 2 意見要旨

委員から出た意見の要旨は以下のとおり。

委員名	意見要旨
石窪委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・今後の財政運営について、概ね現実的であると思った。</li><li>・財政については、受益と負担という観点から、県民にどう説明していくか、キーワードをしっかりと出していくのが良い。狭い範囲での負担や受益を見ている場合もあるかと思うので、県全体の財政の全体像を県民目線から俯瞰して捉えられるような出し方を工夫した方がいいのではないかと。</li><li>・産業の「稼ぐ力」という言葉だけでは、一般の県民の理解と乖離がある。いかに自分たちのやれることがこの稼ぐ力にあるのか、そのような視点を加えて、理解いただくことが重要。</li><li>・県だけで災害や減災・防災について取り組むのではなく、企業等がやっていたところは企業等にやっていただく。そういうような視点を持っていただいて、自治会など様々なところが取り組めるようなレジリエンスを高める仕組みを作っていただきたい。</li><li>・クラウドファンディングなどの仕組みは、もう少し目的を明確に示すことで、県民が賛同できる場所にお金を集めていく仕組みにすることが重要。また、県独自のユニークな資金集めの方策についても検討してはどうか。</li></ul>
宇那木委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・自治体の歳入構造は極めて制約があり、なかなか難しいところがある中で、健全かつ持続的な財政運営、それとともに将来への戦略的投資を両立していかななくてはならないという非常に難しい舵取りを担っている。新たに策定しようとしている指針に従って、目的を達成できるようにしていただきたい。</li></ul>
桶谷委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・健康寿命の延伸というような方策を出す一方で、収支均衡を指標とした場合、新たな要望や意見が通りにくくなってしまわないよう配慮していただきたい。</li></ul>
國弘委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・歳出面の扶助費について、精神疾患や障害などの重症化の予防にしっかり取り組み、その方々が持っている力を最大限に生かせる環境作りを行うことで歳出面を減らすといったことも文言に入れていただきたい。</li><li>・扶助費について、「できる限り増加を抑制」という枠組みの中に、行政から支援を受けることは悪いことではないということも入れていただきたい。</li></ul>
下町委員	<ul style="list-style-type: none"><li>・これまでの取組や県民の協力などによって一定の成果を上げてきていることは理解できた。</li><li>・全体的な印象としては、行政改革ということで内向きの印象を持ってしまう。</li><li>・歳入については、県民の所得を増やして消費を喚起していく、地場の事業者</li></ul>

委員名	意見要旨
下町委員	<p>に利益が還元されるようにしていくことが大事。歳出については、一層メリハリをつけた事業の見直しとあり、成果主義を入れるという理解をした。メリハリという表現でちょっと分りづらいが、県民が稼げる政策を打ち出していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歳出について、扶助費が増える、公債費は適正な規模で管理、普通建設事業費は増える可能性、一般政策経費はメリハリをつけて現状維持という感じを受けた。では、人件費を削るのかという話になる。それは、職員の数を更に減らすか、人件費単価を減らしていくのか。人材争奪が厳しくなる中で、県の行政を担う人材を持続可能に確保できるだろうかと思う。</li> <li>・内容を具体化していく際には、分かりやすい形で広く周知をして、多様な県民の意見を拾い集めて集約をしていただきたい。</li> </ul>
辻委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体としては、バランスのとれたよい方針ではないかと思う。</li> <li>・官民協調で事業ができるかどうかということを、費用対効果の高い事業ができるかどうかの基準に設定するような考え方をしてはどうか。</li> <li>・県の未来の展望として長寿高齢を推進していくということは、財政的な見地を離れても大変いい施策だと思う。高齢者になっても、健康で長生きできるというイメージを県民全体が持てるかどうかは、鹿児島県に住んでいる人間の楽しさにとって不可避で、これが確保できるのは幸せにも繋がるし、あえて言うとなら財政の健全化にも繋がるのではないかと思う。</li> </ul>
津曲委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総論として、大変よくまとまっていると感じた。抽象的な記述ではあるものの、思い切って切り込んだ表現をしていると思う。</li> <li>・「稼ぐ力」をつけることについては、今後しっかりと進めていく必要がある。その中で優先順位をつけることやPPPの推進をやっていかないといけない。また、「稼ぐ力」とは結果的に外貨を稼ぐということなので、外貨をどのように稼ぐかということについて考えていくべき。環境・健康・安心安全は、本県の強みにもなると思うので、そういうところでの新しい取組を出していただきたい。</li> <li>・歳出は、危機的な状況は脱したが、さらに削減を考えるべき。EBPMと言われているように、しっかりと根拠を示しながら、KPIを設定し、期待通り進まない場合にはどのように見直しをするのかということを、しっかり計画づけてやる必要がある。</li> <li>・人件費もさらに削減をしていかざるを得ない。ただし、一人一人の給与体系を下げるといより、デジタルトランスフォーメーションを推進することをもう少し前面に出してもいいと思う。これもRPAにとどまらず、もっと抜本的に、デジタル化を進めていかなければならない。</li> </ul>
永野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町村代表として、行財政改革を進めながらも、この結果・成果が市町村にしわ寄せがくるような、行財政改革にならないようお願いをしたい。</li> <li>・PFI, ESG投資, クラウドファンディング等様々なことが議論になった。この中にも、どこかにそういう文言が入ってくると進めやすくなる。</li> </ul>

委員名	意見要旨
永山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県がどのくらいお金を持っているかということで、市町村の動きも変わってくるだろうと思うので、そういう意味では県はしっかりとその行財政をやっていただきたい。また、市町村がどういう動きをしているのか見ていただきたい。</li> <li>・ 上位の計画ということもあり、地域おこしや地域づくりという言葉が入っていないが、地域おこしにより地域が守られていくため、そういうことも盛り込んでいただきたい。</li> </ul>
新崎委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体としては、ずっと頭に入ってくる内容だったかと思う。ストックとフローそれぞれの指標を設けることは全く同意。</li> <li>・ 企業経営では、フローとストックをつなぐ指標として効率性を示す指標は一般的。行政でそういう指標を設けているところがあるのか、そもそも計測できるのかという問題はありますが、そういうことも見える化できればより県民への説得力が増すと思う。簡単ではないと思うが、試行錯誤する価値はある。</li> <li>・ 「稼ぐ力」という言葉を入れるのは非常に意味の大きいことだと思う。何のために削るのか、ビジョンやストーリーを示すのは、非常に重要なこと。そういう話がここに全部凝縮されているので、もう少し工夫するとより伝わる。</li> <li>・ 未利用財産の売却活用に経営的な視点を入れると、もっと実効的なものにできるのではないか。もう一つは未利用の間の機会損失という時間的な観点もある。民間の知恵を導入できるような、あるいは民間が参入しやすくなるような誘導策、適切なリスク分担も今後考えるべき。</li> <li>・ 「見える化」は非常に重要。昨今、KPIを設けて議論するが、アウトプットとアウトカムが混同されて議論になる。事業をどれだけ実施したかではなく、最終的な政策目標をどれだけ実現したかどうか、前向きに試行錯誤して、サイクルをまわして、県民の見える化につなげていただきたい。</li> </ul>
林田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後の財政運営について、全体にそつなく、そうだなと思う内容だった。</li> <li>・ 歳出は構造的にも減らすことが難しい状況。歳入を何とかするしかないが、地方交付税に関しては多分減らさざるをえない。その中でどうするかというと、自主財源を増やすしかない。自主財源が低いことについて、きちんと分析する必要があるのではないか。</li> <li>・ 他の委員から出たが、効率性の指標を入れてはどうかという考えは良い。以前、効率性ということで各都道府県の順位を出したことがある。効率性の視点は大切なので、そういうものも入れてもらったら良い。</li> <li>・ 「稼ぐ力」について、実際に政策をするときは、各産業全部ではなくて、どの産業に集中してやるべきか分かってないといけないのではないか。</li> <li>・ 「徴税対策の強化」と掲げると、現状が低いのかと思うので、「公平性の観点から」ということが書かれていたらより良いのではないか。</li> </ul>
本坊委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行財政改革を進めていく中で、県民の皆様にご理解とご協力をいただくことが大事。すべてが行政に金を出してもらってということから、これからは地域の皆さんの協力をいただきながら、それぞれの県土の財産をどのように守っていくかということが大変大事だと感じている。</li> <li>・ 官が得意なところと民間が得意なところをお互い協力し合う、官民一体となった考え方が必要。</li> </ul>